

日本応用経済学会ニュースレター

Japan Association of Applied Economics News Letter

第9号 2017年12月

日本応用経済学会事務局：〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学経済学部

TEL/FAX：092(642)2474

E-mail: jaae@econ.kyushu-u.ac.jp

<http://mweb.healthcare-m.ac.jp/>

目次

日本応用経済学会学会長就任の挨拶

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

紹介！研究室

2018年度春季大会のご案内

事務局だより

2016年度決算資料

2017年度予算資料

I. 日本応用経済学会学会長就任の挨拶

2017年9月

日本応用経済学会
会長 成生 達彦

このニューズレターには昨年度の決算報告書や今年度の予算案などの会計資料が掲載されておられません。というのは、春季大会の定例総会で承認されなかったからです。主な原因は集計ミスで、一昨年の会費収入の一部を二重に計上していたため、一昨年の繰越金額が実際よりも多く計上されていました。今年の会計監査で判明したのですが、そうすると一昨年の決算報告や昨年度の予算案も訂正する必要があります。理事会では、原因もある程度判明していることだし、定例総会で「仮承認」を受けてはどうかという意見も出ましたが、きちんと準備して、秋季大会で臨時総会を開き、そこで承認を得ることにしました（この点については「平成28年度会計報告、平成29年度予算について」を参照して下さい）。

私は千人規模の他の学会で監事を務めていますが、会員の会費振り込みや領収書をチェックし、学会活動と支出の適切さを確認するのに1日かかりました。学会の事務局は大会の運営や学会誌の発行をはじめ、さまざまな業務を行っており、それを適切に行うには相当の時間を必要とします。本学会ではこれまで、これらの業務を一部の理事に無償で委ねてきました。彼らのボランティア精神には感謝しますが、規模の拡大にともなって仕事の量が増えると、彼らの負担が重くなります。

一つの解決策は学会業務の外部委託です。学会業務を代行する企業がいくつか存在し、多くの学会がそこに業務を委託しています。千人規模のある学会の業務委託費用は200万円程度ですが、会費の請求書や大会案内などの会員への郵送、学会誌の発行、会計処理や報告書の作成など多くの仕事をしてもらっています。500人規模の学会なら100万円程度で済むと思うのですが、それを捻出

するためには会費を2000円程度引き上げる必要があります。

代替的な方策の一つは、紙媒体での学会誌を止め、電子媒体（Jステージ）にすることです。ある学会では、年4回の発行で400万円以上かかっていた印刷・製本・（会員宛）郵送費用を100万円程度（組み版代+Jステージ掲載料）に削減できました。私自身は紙媒体に愛着があるのですが、このようにして業務の外部委託費を捻出することも考えられます。将来の学会事務体制について、会員の皆様のご意見をお聞かせ下さい。（意見の提出先：jaae@econ.kyushu-u.ac.jp）

II. 2016年度理事会報告（秋）

2016年度日本応用経済学会秋季大会理事会報告

日時：11月26日（土）10時30分～

会場 慶応義塾大学三田キャンパス 研究室棟 1階 AB会議室

出席者：成生、田中、福重、大住、多和田、秋山、細江、坂上、秋本、永星、大川、木原、慶田、中村、中山、林、堀、山田、長岡、柳瀬、渋澤、伊ヶ崎、大内田、瀧井、野崎

開催校挨拶

理事会開催前に会長より挨拶があり、続けて開催校の藤田康範先生より挨拶があった。

議題

1. 新入会員、退会の承認が行われた。

2. 国際交流の件について

KEBAの大会日程については今後調整することとなった。

3. 編集委員会報告（資料3）

資料に基づき、編集状況について説明が行われた。林委員長より新体制についての報告があった。

4. 著作賞の選考方法について（資料5）

資料5に基づき、多和田委員長より著作賞の選考方法や推薦書について提案があり、承認された。

5. 学会賞の選考について

例年通りに行うことの報告が行われた

6. 来年度春季大会開催校について

久留米大学 6月17日、18日に開催されることが理事会で承認された。

7. 来年度春季大会プログラム委員長について打診中

であることが報告された

8. 来年度秋季大会開催校について

打診中について打診中であることが報告された。

10. その他

今後の国際交流の参加者について議論があった。

来年度春季大会開催校を代表して秋本耕二先生より挨拶が行われた。

III. 2014年度理事会報告（春）

2017年度日本応用経済学会春季大会理事会報告

日時 6月17日（土）11時00分～

場所：久留米大学御井学舎本館8階

スカイラウンジA

出席者：成生、田中、焼田、福重、大住、多和田、藪田、秋山、細江、坂上、秋本、大川、木原、中村、福澤、三浦、山田、内藤、長岡、柳瀬、洪澤、伊ヶ崎、大内田、野崎

（敬称略）

理事会冒頭に会長より挨拶があった。続けて、開催校を代表して、秋本耕二（久留米大学経済学部教

授）より挨拶が行われた。

議題

1. 入会・退会員承認

資料1に基づき、新入会・退会の承認が行われた。

2. 平成28年度会計報告（別紙1）

財務担当の秋山常務理事より、平成28年度会計報告について、作成した会計報告に間違いがあることに気づき、修正が間に合わず、監査を受けることができなかった旨説明された。会計報告について調査を行い、監事の精査後、修正された会計報告を秋の理事会で審議することとなった。また本日の総会では、会計報告について説明し、秋季大会で総会を開催し、承認を行うこととなった。

3. 平成29年度予算について

会計報告の承認が得られてないため、仮承認となった。

4. 2016年度学会賞選考報告

資料2-1に基づき、学会賞の選考結果について、多和田学会賞選考委員長より説明があり、選考結果について承認された。

5. 著作賞の選考方法について

資料2-2に基づき、著作賞の選考方法の変更についての提案が行われ、承認された。

学会賞の規定の見直しの必要性があるため、検討し、次回理事会にて検討されることとなった。

6. 学会誌編集委員会報告

坂上副委員長より資料の説明が行われた。また次回理事会でいくつか問題提起をしたい旨の報告があった。

7. 国際交流について

大住委員長より国際交流実績報告について資料4に基づき説明が行われた。

8. 国際交流成果出版の件

細江常務理事より、国際交流成果の出版について提案され、継続審議となった。

9. 次回大会の決定について

東海大学で開催することが承認され、本間聡東海大学教授より開催の挨拶があった。

10. その他

事務局より、学会 web サーバーの変更を検討している旨の説明があった。

報告

1. 次回の大会開催についての報告が行われた。

2. その他

特になし。

以上

IV. 「応用経済学研究」編集委員会報告

「応用経済学編集委員会」委員長
林正義（東京大学）¹

1. 第 11 巻の編集について

第 11 巻については、2018 年 3 月に刊行の予定である。2017 年 6 月 17 日現在での状況については、以下の通りである。

- 採択決定 3 本
- 査読中 3 本 [うち 1 回目審査中 1 本, R&R (2 回目) 2 本]
- 修正依頼に返事無し 3 本
- 不採択決定 3 本

現体制 (2016 年 12 月 1 日～) になってからは、5 本の投稿が有り、うち 1 本が採択決定、3 本が不採択、1 本が審査中である。これに前体制から引き継いだ論文を含めると、現在 9 本が審査中ある

¹委員長の林正義は理事会欠席のため、報告は副委員長の坂上智哉から報告がなされた。

いは改訂中である。ただし、うち 3 本の論文が修正依頼から 1 年以上 (うち 1 本は 5 年近く) にわたり修正の断りを含めた返事・再投稿がないため、この分に関して再投稿は無いと見込んでいる。したがって、年度内刊行を前提とすると、R&R (2 本) の結果にもよるが、数本程度の掲載数になることが予想される。

2. その他

「応用経済学研究」の編集・出版にかかわる諸問題については現在整理中であり、秋大会の理事会に於いて問題提起する予定である。

V. 2016 年度学会賞について

学会賞選考委員長

多和田 眞 (愛知学院大学)

学会賞

安岡 匡也 氏 (関西学院大学)

(受賞理由) 安岡匡也氏は、少子高齢社会における税制及び社会保障制度についてマクロ経済学的な視点から精力的な研究を展開されており、多数の査読付き論文を公刊している。安岡氏の研究テーマである持続可能な社会保障制度の制度設計は日本経済が直面する重要な課題であり、その研究成果は社会的に大きな貢献をなしている。

学術論文賞

前川 俊一 氏 (椋山女学園大学)

選択対象論文

役重道明・前川俊一著「外部効果をもつ土地開発に対する規制誘導策に関する研究」

(応用経済学研究第 10 巻掲載)

(受賞理由) 本論文は、地域開発に関わるディベロッパーが土地開発を実施する際に望ましいタイミングで実施するような規制メカニズムの構築を目的とするものである。通常は民間の開発タイミングは外部性の存在等によって社会的に望ましい

タイミングと必ずしも一致するとは限らない。その結果、スプロール現象をはじめとする土地の非効率的な利用をもたらす。本論文ではこうした点を踏まえ、ファーストベストを達成するための規制・補助金政策を構築し、開発規模または投資規模に対して適切な課税をすることによって最適な開発時期が実現できることを明らかにしており、この分野での重要な貢献となっている。

奨励賞 2名

熊谷啓希氏（九州大学経済学部）

選択対象論文

単著「企業内におけるタスクデザイン—情報収集業務と実行業務の統合と分離—」

（応用経済学研究第10巻掲載）

（受賞理由）本論文はマルチタスクの統合・分離問題に関するものであり、マルチタスクを複数のエージェントに委ねる場合と一つのエージェントにすべて委ねる場合を比較して、既存研究での分離が望ましいという結論に対して、エージェントの努力と成果に不確実性が存在する場合は統合が望ましいという興味深い結論を導出している。近年の重要な学問分野である契約理論において今後の活躍が期待できる。

高島伸幸氏（九州大学経済学部）

選択対象論文

単著「先進国と途上国が加盟する国際環境協定—繰り返しゲームによる分析—」

（応用経済学研究第10巻掲載）

（受賞理由）本論文は、先進国と途上国が加盟する国際環境協定に関して繰り返しゲームを用いて分析している。汚染削減費用と汚染削減量の2つの遵守ルールの下で検証し、汚染削減費用の一律負担ルールの方が加盟国の厚生を上昇させることを明らかにしており、合意を見出すことの難しい現実の国際環境協定の在り方に対して汚染削減量に固執せずに費用負担の見地からの交渉の重要性

を示唆したものとして評価でき、この分野での今後の活躍が期待できる。

著作賞

近藤健児氏（中京大学経済学部）

対象著作書 研究書：The Economics of International Immigration

（Springer, 2016年発行）

（受賞理由）本書はヘクシャー・オリーンの貿易理論をもとに国際間労働移動問題を包括的に取り扱った研究書である。特に、国際労働移動問題の基礎分析を深めると同時に、近年の重要な経済問題で環境、高齢化、経済統合などに国際間労働移動がどのような意味を持つのかという視点から分析を行った大変優れた研究書である。今日、国際労働移動問題は移民・難民などの大規模化によって国際的に解決すべき重要なテーマであり、本書はその研究のための貴重な貢献といえる。

VI. 国際交流委員会報告

国際交流委員会報告

「2017年(平成29年)4月の韓国訪問滞在略記」

小川健（専修大学）

KAAEとの提携に基づき2017年(平成29年)4月末、韓国北東部・束草(ソクチョ)地区で開催の大会にJAAEからは私を含めて4名が参加した。諸事情により日韓双方の重鎮が参加できなくなる事態は発生したが、それを除けば滞りなく進んだ。ソウル経由での入国となり、前日から手厚い歓迎を受けた。会場へは高速バスで主に移動したが、行きは貸し切りに近い形態を取っていた。韓国セッションと英語セッションの2つに分かれていたが、2つずつとほぼ半々であった。日本側は急きよ小川持参の東京バナナを簡易的な贈答とした。報告内容も多岐に分かれ、表彰の様子等を見てもKAAEは精力的に行われていた。報告翌日は束草周辺での歴史的寺院の視察等も設定されていて、

日本側も招く際に参考にすべき事案であった。

VII. 紹介！研究室

今回は、拓殖大学政経学部の丹野忠晋先生の研究室をご紹介します。

丹野忠晋（拓殖大学）



丹野研究室は、大学院経済学研究科の演習、政経学部の4年ゼミナールと3年ゼミナールから成っています。

大学院生は修士論文執筆に向けて中国の過剰投資問題を中心にテーマ設定を行っています。4年生は卒論作成のためベストを尽くしています。

3年生は現在ERE経済学検定試験の大学対抗戦に参戦し高得点を目指し奮闘中です！前期は後藤晃先生の『独占禁止法と日本経済』を輪読しました。ゲストスピーカーとしてベストセラー『自分を変える習慣力』の三浦将先生をお迎えして勉強の習慣付けや意思力の重要性について学びました。また、グリコの工場や東京証券取引所へ見学に行きました。このような課外活動も行い楽しく研究活動を行っています。

VIII. 春季大会について

2018年度日本応用経済学会秋季大会は6月23-24日に京都大学の成生達彦先生会長を大会委員長として準備が進められております。会員の皆様には奮ってご参加のほど、よろしくごお願い致します。

IX. 事務局便り

今年度のニューズレターは発行が大幅に遅れてしまいました。冒頭の成生会長の挨拶にもありましたように、予算・決算の総会での承認が遅れたため

す。今後、このようなことがなきよう、事務局も改めて気を引き締めて学会を支える所存でございます。会員の皆様におかれましては、引き続きのご支援をお願いいたします。

(ニューズレター作成担当 内藤徹 (同志社大学))

平成28年度 日本応用経済学会 会計報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	3,072,028	3,072,028	0
会費収入	3,210,000	3,060,000	▲ 150,000
参加料収入	480,000	458,000	▲ 22,000
懇親会費収入	170,000	151,000	▲ 19,000
学会誌収入(掲載料)	120,000	70,000	▲ 50,000
学会誌収入(投稿料)		54,000	54,000
利子収入		3	3
(収入小計)	3,980,000	3,793,003	
合計	7,052,028	6,865,031	▲ 186,997

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	100,000	111,886	▲ 11,886
消耗品費	100,000	65,243	34,757
事務補助費	400,000	92,672	307,328
学会開催補助費	800,000	800,000	0
懇親会補助費	170,000	151,000	19,000
理事会開催補助費	100,000	88,680	11,320
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
シンポジウム等補助金	200,000	245,000	▲ 45,000
学会賞	60,000	81,540	▲ 21,540
国際交流費	350,000	253,982	96,018
払込手数料	50,000	40,996	9,004
学会誌購入	1,800,000	1,644,624	155,376
雑費	50,000	10,013	39,987
予備費		0	0
小計	4,230,000	3,585,636	644,364
繰越金		3,279,395	
合計	4,230,000	6,865,031	▲ 2,635,031

現金・預金残高

平成28年度期首	秋山	野崎	小計
郵貯センター	890,251		890,251
郵貯口座	421,150		421,150
現金	1,586,103	-1,122	1,584,981
福岡銀行		175,646	175,646
期首繰越	2,897,504	174,524	3,072,028

平成28年度期末	秋山	野崎	小計
郵貯事務センター	761,359		761,359
郵便貯金口座	107,423		107,423
現金	2,132,478	-127,275	2,005,203
福岡銀行		405,410	405,410
期末繰越	3,001,260	278,135	3,279,395

上記の通り報告致します。

監査の結果、上記相違ありません。

会計担当理事
会計担当幹事
監事

秋山 優
野崎 竜太郎
長島 正治



平成29年度 日本応用経済学会 予算

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	3,279,395	
会費収入	3,050,000	(8,000円×350人)+(5,000円×50人)
参加料収入	460,000	2,000円×115人×2回
懇親会費収入	150,000	{(1,000円×5人)+(2,000×35人)}×2回
学会誌収入	120,000	掲載料10,000円×6人+投稿料6,000×10人
利子収入		
(H29収入小計)	3,780,000	
合計	7,059,395	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	150,000	
消耗品費	50,000	
事務補助費	400,000	200,000円×2回
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
懇親会補助費	150,000	懇親会費収入と同額
理事会開催補助費	100,000	50,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	250,000	
学会賞	80,000	
国際交流費	350,000	2人2泊宿泊費+旅費
払込手数料	50,000	
学会誌購入	1,700,000	
雑費	30,000	
小計	4,160,000	
予備費	2,899,395	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	7,059,395	